

第3回となる今年度の表彰においては、全国各地から34件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全34件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦いただきました。特に、今年度は陸・海・空に渡る多様な公共交通に関わるバリアフリー化の取組みが目立ちました。そのほか、NPOや、地域で活動を行う有志のグループによる取組みなども多く推薦され、多様な担い手によるバリアフリー化が様々な分野で進展していると感じられました。

表彰対象の選考に当たっては、ハード面の取組みについては、バリアフリーの施設・設備・しくみとして優れていることや、地域の障害者等の方々のご意見を設計・施工等の段階で十分取り入れていること、表彰を通じて今後の同様の取組みにおいてさらなるバリアフリー化の展開が期待されることなどを考慮して評価しました。

また、ソフト面の取組みについては、地道であっても継続的に取組みが積み重ねられてきていることや、バリアフリー化が求められる多様な場面に対応して独創的な活動が行われていること、他の主体との連携により波及効果の高い活動が行われていること、さらには、同様の活動分野において今後さらなる取組みの展開が期待されることなどを考慮して評価しました。



秋山 哲男 委員
(首都大学東京 教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)

「特定非営利活動法人 手と手」につきましては、障害者等にとって参加の困難度の高い「さっぽろ雪まつり」において、雪道という条件克服のため車いすに工夫を加えながら、長年に渡って多数の市民ボランティアと協力して、障害者等の祭見学の介助ボランティアを実施しています。また、「新日本海フェリー株式会社 小樽本店」につきましては、バリアフリー化に関する国民の理解を深める「バリアフリー教室」において、講師を派遣する「手と手」と連携して、実際のフェリーやターミナルを活用し実践的な講習を行うとともに、障害者自身に対しても船旅の楽しさを体験してもらうことにより障害者を含むツアーの実施に結びつけるなど、効果的な啓発活動を継続的に実施しています。これらの取組みを通じて、北海道におけるバリアフリー・ツーリズムの普及に貢献されていることを高く評価し、表彰することといたしました。

「株式会社楽天野球団」及び「広島市」につきましては、一方は改修、もう一方は新設という手段により、「野球場」という施設のバリアフリー化を実現しました。

「株式会社楽天野球団」においては、地域の障害者団体等との意見交換の中でのアドバイスを的確に設計に反映し、5つのエリアへ車いす席を整備、多機能トイレを15箇所新設、エレベーターを4箇所設置したほか、授乳室の整備や託児サービスの実施、総合案内に手話検定取得者を配置するなど、制約の多い既存施設の改修でありながら、しっかりとしたバリアフリー化に取り組んでいます。

「広島市」においては、最大300席分の車いす用観戦スペース設置のほか、広島駅に通じる歩道と球場内コンコースを直結する広幅員の歩行者用スロープ、球場を一周する広幅員で平坦なコンコース、緩傾斜の観戦スタンド、1,000席分の難聴者用補聴設備の整備など、新設球場において高次のバリアフリー化を実現しています。

いずれにおいても、施設整備を通じて、障害者をはじめ幅広い層へのスポーツ観戦への参加機会の拡大に積極的に取り組んでいる点を高く評価し、表彰することといたしました。

「東京地下鉄株式会社」につきましては、既存施設である地下鉄丸ノ内線などにおいて、限られた空間内で、営業しながら可動式ホーム柵やエレベーターを設置するなど、既存の鉄道施設における先導的なバリアフリー化を実現するとともに、新設の副都心線においては、ホームドアは言うに及ばず、ストレッチャー対応エレベーターの設置や複数の多機能トイレの設置など、高次のバリアフリー化を実施したことを高く評価し、また鉄道事業者のトップランナーとして、今後のさらなる取組みにも期待し、表彰することといたしました。

「高野町」及び「南海電気鉄道株式会社」につきましては、山間地という地形的困難性を有しながらも、町と交通事業者が協力してバリアフリー新法下において先駆的にバリアフリー基本構想を作成し、地域内のほか地域外からの利用者の意見もふまえつつ、ケーブル



三星 昭宏 委員
(近畿大学 教授)



～ 選考風景 ～

カー特有の困難性に対応した階段状の乗降場のバリアフリー化や、景観に配慮した新たなエレベーター塔やトイレの設置、ハイブリッドノンステップバスの配備を行うなど、規模の小さい町であっても、世界遺産を抱える観光地として戦略的にバリアフリー化に取り組んでいることを高く評価し、表彰することといたしました。

「高知県、高知市及び四国旅客鉄道株式会社」につきましては、鉄道の高架化、路面電車の軌道整備と合わせ、大規模な土地区画整理事業を実施して、駅前広場、バスターミナル、駅前駐車場、トイレ等の整備を行い、互いに連携して、地域における各種交通モードの結節点である高知駅とその周辺区域において、市街地の抜本的な環境改善に取り組み、総合的なバリアフリー化を実現したこと、また、その整備に当たっては、地域の障害者団体等との意見交換を幾度も行い、車いす使用者が2人乗れる15人乗りエレベーターの整備などの施設整備に結びつけたことを高く評価し、表彰することといたしました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれ特徴のある取組みも多く、今回受賞とらなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、それを通じて我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

＜選考委員一同＞